



# Content Engine GUI のメニュー オプション

この付録では、Content Engine GUI で使用できるタブおよびサブタブ（メニュー オプション）について説明します。このメニュー オプションを使用して、スタンドアロン Content Engine を設定および監視することができます。

この付録の構成は、次のとおりです。

- [Content Engine GUI のタブ \(P. A-2\)](#)
- [WCCP タブとサブタブ \(P. A-3\)](#)
- [Caching タブとサブタブ \(P. A-5\)](#)
- [System タブとサブタブ \(P. A-8\)](#)
- [Reporting タブとサブタブ \(P. A-9\)](#)



(注)

Content Engine GUI へアクセスする方法については、「[Content Engine GUI へのログイン](#)」(P. 4-60)を参照してください。Content Engine GUI には状況依存ヘルプ機能があり、Content Engine GUI ウィンドウの一番下にある **HELP** ボタンをクリックするとアクセスできます。

## Content Engine GUI のタブ

表 A-1 では、4 つの機能タブ、およびそれらに関連する機能を説明しています。

**表 A-1 Content Engine GUI の機能タブ**

タブ	説明
WCCP	Content Engine 上で WCCP を有効にし、WCCP 関連のパラメータおよびサービスを設定します (Web キャッシュ サービスをサポートするための設定など)。
Caching	Content Engine 上でキャッシュ関連のパラメータ (コンテンツ事前ローディングなど) を設定します。
System	Content Engine 上でシステム関連のパラメータ (アクセス リスト、DNS、Websense サーバパラメータ) を設定します。
Reporting	Content Engine によって収集された統計情報 (ディスク統計情報、パフォーマンス統計情報、WMT ストリーミング統計情報など) を表示します。  Content Engine のハードウェア プロファイル (モデル番号、CPU、メモリ、ディスク、SCSI、NIC)、および Content Engine で現在実行されている ACNS ソフトウェアのバージョンを表示します。

## WCCP タブとサブタブ

表 A-2 では、Content Engine GUI の WCCP タブやサブタブで設定される ACNS 5.3.1 ソフトウェアまたはそれ以降の機能を説明しています。

表 A-2 Content Engine GUI の WCCP サブタブ

サブタブのオプション	説明
Enable WCCP	Content Engine 上で WCCP を有効にします。Content Engine 上で WCCP Version 1、または WCCP Version 2 を有効にするときに使用します。
Clustering	WCCP サービス クラスタに関連するパラメータを設定します。
Custom Web Cache	(WCCP Version 2 の設定のみ)  Content Engine 上で WCCP カスタム Web キャッシュ サービスを設定します。Content Engine は、WCCP Version 2 のサービスをサポートするように設定されているときは、Content Engine は指定されたルータ リスト上の WCCP 対応ルータによって、Content Engine に透過的にリダイレクトされる HTTP 要求に対する透過フォワードプロキシサーバとして動作します。要求されたコンテンツがローカル キャッシュにない場合は、Content Engine は、そのコンテンツを元の Web サーバから取得して、以後の要求に備えてローカル コピーを保存し、クライアントに要求されたコンテンツを送信します。同じコンテンツに対する以後の要求には、Content Engine 上のローカル キャッシュが送られます。
Reverse Proxy	(WCCP Version 2 の設定のみ)  Content Engine 上で WCCP リバース プロキシ サービスを設定します。Content Engine が、この WCCP Version 2 サービスをサポートするように設定されていると、Content Engine は、リバース プロキシとして動作します。また、オリジン Web サーバに代わりプロキシとして機能します。
RTSP	(WCCP Version 2 の設定のみ)  Content Engine 上で WCCP RTSP メディア キャッシュ サービスを設定します (透過フォワードプロキシサーバ)。Content Engine は、標準 RTSP ポート (デフォルト ポート 554) で転送された RTSP 要求を受信します。デフォルト ポート (ポート 554) 以外のポートで代行受信された RTSP 要求を受信するように Content Engine を設定するには、ユーザ定義 WCCP サービスを設定します (サービス 90 ~ 97)。  要求されたコンテンツがローカル キャッシュにない場合は、Content Engine は、そのコンテンツを元のストリーミングサーバから取得して、以後の要求に備えてローカル コピーを保存し、クライアントに要求されたコンテンツを送信します。同じ RTSP ストリーミングコンテンツに対する以後の要求には、Content Engine 上のローカル キャッシュが送られます。
Services	(WCCP Version 2 の設定のみ)  ユーザ定義 WCCP サービス (サービス 90 ~ 97) を使用し、複数のポートを使用して Web トラフィックをキャッシュするように Content Engine を設定します。これらの汎用 WCCP Version 2 サービスを設定するには、この WCCP Services ウィンドウを使用します。

表 A-2 Content Engine GUI の WCCP サブタブ (続き)

サブタブのオプション	説明
Web-cache	<p>(WCCP Version 1 または Version 2 の設定)</p> <p>Content Engine 上で WCCP Web キャッシュ サービス (サービス 0) を設定します (透過フォワード プロキシサーバ)。このサービスを使用することで、Content Engine は、透過的に転送された HTTP 要求を単一のポート (ポート 80) で受信できるようになります。要求されたコンテンツがローカル キャッシュにない場合は、Content Engine は、そのコンテンツを元の Web サーバから取得して、以後の要求に備えてローカル コピーを保存し、クライアントに要求されたコンテンツを送信します。同じ Web コンテンツに対する以後の要求には、Content Engine 上のローカル キャッシュが送られます。</p> <p>WCCP Version 1 でのサポートは、単一の WCCP ルータだけでしたが、WCCP Version 2 では複数の WCCP ルータ (ルータ リスト) がサポートされています。Content Engine が、デフォルト ポート以外のポートで、代行受信された HTTP トラフィックを受信できるようにするには、カスタム Web キャッシュ サービスまたはユーザ定義 WCCP サービス (サービス 90 ~ 97) を設定します。</p>
WMT-Streaming	<p>(WCCP Version 2 の設定のみ)</p> <p>Content Engine 上で WCCP WMT メディア キャッシュ サービスを設定します (透過フォワード プロキシサーバ)。要求されたコンテンツがローカル キャッシュにない場合は、Content Engine は、そのコンテンツを元のストリーミング サーバから取得して、以後の要求に備えてローカル コピーを保存し、クライアントに要求されたコンテンツを送信します。同じ WMT ストリーミング コンテンツに対する以後の要求には、Content Engine 上のローカル キャッシュが送られます。</p>

## Caching タブとサブタブ

表 A-3 では、Content Engine GUI の Caching タブやサブタブで設定される ACNS 5.3.1 ソフトウェアまたはそれ以降の機能を説明しています。

表 A-3 Content Engine GUI の Caching サブタブ

サブタブのオプション	説明
Auth. cache	Content Engine 上でキャッシュ認証を設定します。詳細は、「 <a href="#">認証済み HTTP キャッシュの設定</a> 」(P. 7-12) を参照してください。
Bypass	(WCCP Version 2 の設定のみ) Content Engine 上でバイパスを設定します。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine でのバイパスの設定</a> 」(P. 15-3) を参照してください。
Cache on Abort	Content Engine 上で cache-on-abort 機能を設定します。Web クライアントがダウンロード処理を中断したときに Content Engine が使用するオブジェクト キャッシング用のポリシーを決定します。  このオプションが有効になっている場合、Web クライアントがダウンロードを中断したときに、Content Engine は、選別アルゴリズムを使用して引き続きオブジェクトをキャッシュするかどうかを決定します。このオプションが無効になっている場合、Content Engine は、クライアントがダウンロードを中断した場合でも、引き続きオブジェクトをキャッシュにダウンロードします。
Content Preload	Content Engine 上でコンテンツ事前ローディングを設定します。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine のコンテンツ事前ローディングの設定</a> 」(P. 11-2) を参照してください。
Customized Error Page	カスタマイズされた HTTP エラー ページを作成します。これらのカスタマイズされたページを作成する場合、Content Engine は、プロキシエラー発生時にデフォルトのエラーメッセージを使用せずに、適宜カスタマイズされたエラー ページを表示します。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine での HTTP カスタム エラー ページの作成</a> 」(P. 5-17) を参照してください。
FTP Freshness	Content Engine の FTP-over-HTTP キャッシングに対する FTP オブジェクト新鮮度係数の表示または設定を行います。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine における非透過 FTP-over-HTTP キャッシングの設定</a> 」(P. 7-40) を参照してください。
FTP Proxy	FTP-over-HTTP 要求に対する FTP 着信プロキシおよび発信プロキシを設定します。プロキシモードは、WCCP が有効になっていない環境、またはクライアント ブラウザが従来の FTP プロキシ サーバを使用するようにすでに設定されている環境で、Content Engine が動作できるようにします。着信 FTP プロキシ要求をサポートするには、DNS を設定する必要があります。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine における非透過 FTP-over-HTTP キャッシングの設定</a> 」(P. 7-40) を参照してください。
HTTP Freshness	Content Engine に現在キャッシュされている HTTP オブジェクトの新鮮度係数の表示または設定を行います。詳細は、「 <a href="#">HTTP キャッシュ新鮮度の設定</a> 」(P. 7-9) を参照してください。
HTTP Proxy	Content Engine に対する HTTP の着信プロキシおよび発信プロキシを設定します。プロキシモードは、シスコの WCCP が有効になっていない環境、またはクライアント ブラウザが従来のプロキシ サーバを使用するようにすでに設定されている環境で、Content Engine が動作できるようにします。着信プロキシ要求をサポートするには、DNS の設定が必要です。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine における非透過 HTTP フォワード プロキシ キャッシングの設定</a> 」(P. 7-8) を参照してください。

## ■ Caching タブとサブタブ

表 A-3 Content Engine GUI の Caching サブタブ (続き)

サブタブのオプション	説明
HTTPS Proxy	HTTPS の着信プロキシおよび発信プロキシを設定します。HTTPS プロキシモードにすると、Content Engine は、HTTPS プロキシサーバを使用するように設定されている Web クライアントによって送信される HTTPS 要求を処理できます。着信 HTTPS プロキシ要求をサポートするには、DNS の設定が必要です。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine における HTTPS プロキシキャッシングの設定</a> 」(P. 7-27) を参照してください。
ICP Client	要求されたオブジェクトをインターネットから取得する前に ICP クエリを生成するように、Content Engine クラスタを設定します。たとえば、Content Engine が要求されたデータをインターネットから直接取得するまでに待つ時間の長さを設定できます。デフォルトでは、Content Engine は 2 秒間待ちますが、このデフォルト値は変更できます。範囲は 1 ~ 30 秒です。詳細は、「 <a href="#">ICP クライアントとしてのスタンドアロン Content Engine の設定</a> 」(P. 7-74) を参照してください。
ICP Server	ICP サーバとして動作するように Content Engine を設定します。指定の ICP クライアントに対して、Content Engine を親サーバにするか、子サーバにするかを設定します。Content Engine が親 ICP サーバで、ICP クライアントの要求を満たすことができない場合、Content Engine は、要求をインターネット上の別のサーバに転送します。Content Engine が子 ICP サーバであり、ICP クライアントの要求を満たすことができない場合、Content Engine は、ICP クライアントに失敗を知らせる応答を戻します。詳細は、「 <a href="#">ICP サーバとしてのスタンドアロン Content Engine の設定</a> 」(P. 7-75) を参照してください。
LDAP	認証の目的で LDAP サーバを使用するように Content Engine を設定します。Content Engine が特定の LDAP サーバを使用できるように設定するには、LDAP サーバの IP アドレス、および LDAP サーバが待ち受けするポート番号を入力します。デフォルトの LDAP ポート番号は 389 です。LDAP サーバが 1 台も設定されていない場合、LDAP 認証は実行されません。詳細は、「 <a href="#">HTTP 要求の LDAP 認証の設定</a> 」(P. 10-13) を参照してください。
Native FTP Proxy	Reflection X または WS-FTP クライアントなどの FTP クライアントからの FTP ネイティブ要求に対する FTP 着信プロキシおよび発信プロキシを設定します。詳細は、「 <a href="#">非透過 FTP ネイティブキャッシングの設定</a> 」(P. 7-49) を参照してください。
NTLM	認証の目的で NTLM サーバを使用するように Content Engine を設定します。Content が特定の NTLM サーバを使用できるように設定するには、ホスト情報を入力します。たとえば、ドメイン名 (ユーザが認証されるドメイン名) およびドメイン サーバ (NTLM サーバの IP アドレスまたはホスト名) を指定します。NTLM サーバが 1 台も設定されていない場合、NTLM 認証は実行されません。詳細は、「 <a href="#">HTTP 要求の NTLM 認証の設定</a> 」(P. 10-29) を参照してください。
Persist. Connect.	Content Engine 上で永続接続を設定します。永続接続は、 <b>client-only</b> 、 <b>server-only</b> 、または <b>all</b> の接続のいずれかに設定できます。  Content Engine 上で <b>Strip NTLM Authentication headers</b> オプションがオフの場合、NTLM 認証ヘッダーはクライアントに送信されます。 <b>all</b> に対する永続接続がオフになっている場合、Content Engine は NTLM 認証をサポートしません。詳細は、「 <a href="#">TCP キープアライブを送信するためのスタンドアロン Content Engine の設定</a> 」(P. 7-69) を参照してください。
Proxy Protocols	Content Engine 用のプロキシプロトコルを設定します。Content Engine は、オリジン Web サーバ自体からオブジェクトを取り出すようにデフォルトで設定されていますが、このプロトコル用の発信プロキシを使用するように設定されている場合は、要求を指定された発信プロキシに転送します。
RADIUS	認証の目的でリモート側の RADIUS サーバを使用するように Content Engine を設定します。リモート側の RADIUS データベースをアクセスするために必要なネットワーク パラメータを設定します。

表 A-3 Content Engine GUI の Caching サブタブ (続き)

サブタブのオプション	説明
RealProxy	RealProxy GUI の Administration ページを有効にします。Real Proxy を起動するには、ACLI を使用して Real Proxy を適切に設定する必要があります。詳細は、「 <a href="#">RealSystem Administrator GUI による RealProxy の設定</a> 」(P. 8-23) を参照してください。
Transaction Logs	トランザクション ロギングの有効化と設定を行います。デフォルトでは、トランザクション ロギングは無効になっています。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine 上でのトランザクションのモニタリング</a> 」(P. 21-28) を参照してください。
URL フィルタリング	URL フィルタリングを設定します。詳細は、「 <a href="#">スタンドアロン Content Engine 上での URL フィルタリングの設定</a> 」(P. 11-9) を参照してください。
WMT-Streaming	WMT を有効にし、WMT ストリーミング パラメータを設定します。詳細については、 <a href="#">第 9 章「スタンドアロン Content Engine 上の WMT ストリーミング メディア サービスの設定」</a> を参照してください。

## System タブとサブタブ

表 A-4 では、Content Engine GUI の System タブやサブタブで設定される ACNS 5.3.1 ソフトウェアまたはそれ以降の機能を説明しています。

表 A-4 Content Engine GUI の System サブタブ

サブタブのオプション	説明
Access Lists	Content Engine 上のグループ名ベースのアクセス リストを管理します。Content Engine をスタンドアロンのキャッシング エンジンとして配置している環境では、グループベースのアクセス リストを使用して、Content Engine で処理される特定コンテンツを表示できるユーザグループを管理しています。 詳細は、「HTTP 要求の RADIUS 認証の設定」(P. 10-11) を参照してください。
Accounting	認証、許可、およびアカウントリング (AAA) の設定 AAA。アカウントリングは、システムの課金処理を目的として管理ユーザ活動を追跡記録するアクションです。詳細は、第 18 章「スタンドアロン Content Engine での AAA アカウントリングの設定」を参照してください。
Authentication	Content Engine が管理ユーザを認証し、権限を与える方法を設定します。詳細は、第 17 章「スタンドアロン Content Engine での管理ログイン認証と許可の設定」を参照してください。
Basic Networking	Content Engine のネットワーク設定パラメータ (デフォルト ゲートウェイおよびホスト名) を変更します。
CDP	Content Engine の Cisco Discovery Protocol (CDP) を設定します。デフォルトでは、CDP は Content Engine 上で有効になっています。
DNS	Content Engine がドメイン名解決用に使用する DNS ネーム サーバを設定し、Content Engine 上での DNS キャッシングを有効にします。このトピックの詳細は、「スタンドアロン Content Engine における DNS キャッシングの設定」(P. 7-64) を参照してください。
File System	現在設定されているファイルシステムの情報を表示します。
NTP	Content Engine の時刻および日付を設定します。
Real Subscriber	Real Subscriber アクティビティを表示します。Real Subscriber は、Content Distribution Manager に登録されている Content Engine と連携した動作のみサポートしています。Real Subscriber は、スタンドアロン Content Engine と連携した動作をサポートしていません。
Routing	ルーティング テーブルに新規にエントリを追加するときに使用します。
Rules Template	Content Engine 上で Rules Template の設定と変更を行います。詳細は、第 13 章「スタンドアロン Content Engine の Rules Template の設定」を参照してください。
SNMP	Content Engine 上で SNMP を設定します。詳細は、「SNMP によるスタンドアロン Content Engine のモニタリング」(P. 21-2) を参照してください。
Syslog	各種のレベルのイベントメッセージを syslog ホストへ送信するように Content Engine を設定します。詳細は、「スタンドアロン Content Engine によるシステム ロギング」(P. 21-22) を参照してください。
TACACS+	認証と権限付与の目的で TACACS+ サーバを使用するように Content Engine を設定します。リモート側の TACACS+ データベースをアクセスするために必要なネットワーク パラメータを設定します。詳細は、「TACACS+ 認証および許可の概要」(P. 17-6) を参照してください。
TCP	Content Engine 上のデフォルトの TCP 設定値を変更します。詳細は、第 20 章「スタンドアロン Content Engine での TCP スタック パラメータの表示と変更」を参照してください。
Users	ユーザ アカウントおよび特権を追加、削除、または変更します。これらのエントリは、Content Engine 上に組み込まれているローカル データベースに保存されています。詳細は、第 17 章「スタンドアロン Content Engine での管理ログイン認証と許可の設定」を参照してください。
Websense Server	Websense サーバの起動と停止を行います。また、ローカル Websense サーバの情報を表示します。詳細は、「Websense URL フィルタリングのためのスタンドアロン Content Engine の設定」(P. 11-19) を参照してください。



## Reporting タブとサブタブ

表 A-5 では、Content Engine GUI の Reporting タブやサブタブからアクセスできる統計情報やその他の情報をリストしています。

表 A-5 Content Engine GUI の Reporting サブタブ

サブタブのオプション	説明
<b>Disk Stats</b>	Content Engine 用の一般的な CFS ディスクの統計情報を表示します。
<b>Hardware Info</b>	Content Engine のハードウェア コンポーネントに関する詳細情報（モデル番号、RAM サイズなど）を表示します。
<b>IMS Stats</b>	If-Modified-Since (IMS) 要求アクティビティ（クライアントから Content Engine に出された要求の総数など）を表示します。
<b>Java Monitor</b>	Content Engine のリソースを表示します。また、Content Engine の使用状況をグラフィカルに表示します。
<b>Performance</b>	Content Engine のパフォーマンス統計情報を表示します。
<b>Requests</b>	各種 HTTP 要求データの統計情報（強制リロード回数など）を表示します。
<b>Savings</b>	Content Engine が処理した要求の数を表示します。
<b>TCP</b>	Content Engine が処理した要求の量を表示します。
<b>Usage</b>	Content Engine 用のリソース使用率の統計情報を表示します。
<b>WMT-Streaming</b>	WMT ストリーミング統計情報を表示します。

